

2 地域における普及活動実績

**人が残り、地域が残る歯舞酪農の確立**

(根室市)

1 課題の背景 \*\*\*\*\*

- 対象：根室市歯舞地域 生乳出荷農家9戸
- 負債を抑えた酪農を展開する一方で牛舎施設が老朽化し、施設投資が必要であった。
- 子牛の事故率が高く、規模拡大に向けた後継牛の確保と安定的な生乳生産が求められていた。
- 将来計画を立て、ほ育・育成牛と乾乳・搾乳牛の飼養管理改善の取組が実践された。

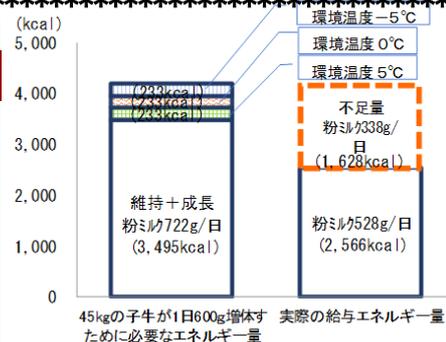
2 活動の経過 \*\*\*\*\*

(1)後継牛確保の取組



ほ育牛の栄養・施設改善

寒冷・衛生・栄養対策を中心としたほ育管理担当者研修会を実施。



ほ育作業に立ち会い、栄養、衛生、環境について確認し、栄養充足をグラフで提示。また、下痢対策のために施設の石灰塗布を提案。



体格測定を実施

育成牛の配合給餌量を実測

育成牛の体格測定を実施。育成作業に立ち会い、飼料給与量・衛生状況・環境状況を確認し、農場へ改善案を提示。



乾乳牛の栄養改善

乾乳牛管理の技術習得のため、地域内の先進的な農場で現地研修会を開催。

(2)飼養管理改善による地域生産乳量の向上



搾乳牛の栄養改善

JA、NOSAIと農場の課題（乳質・疾病・経営）を共有して、農場へ改善提案。

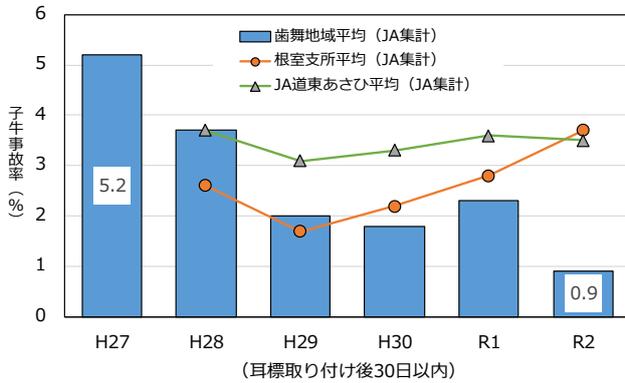


乳牛のモニタリング調査を実施し、適正な飼料給与に向けて栄養改善を提案。

### 3 活動の成果 \*\*\*\*\*

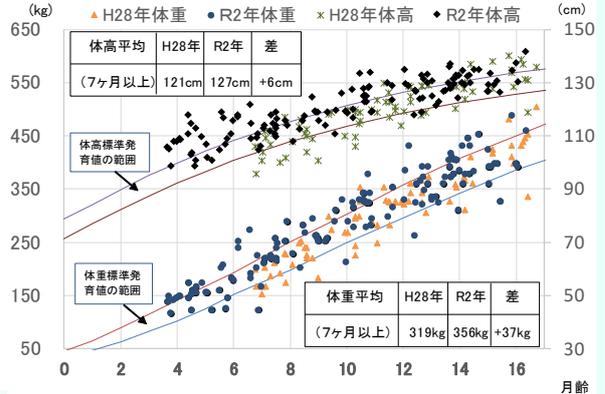
#### (1)後継牛確保の取組

##### ほ育牛の事故率減少



ほ育作業と施設の改善を実践。栄養が充足され、下痢対策や施設の寒冷対策を行ったことで、事故率は5.2%(H27)から0.9%(R2)に減少。

##### 初産分娩月齢の短縮



育成牛の発育が向上し、初産分娩月齢も25.3ヶ月から24.4ヶ月に短縮。

##### 分娩後の疾病減少

取組内容	取組前 疾病発生率	取組後 疾病発生率
カルシウム飼料給与 (取組戸数2戸)	15% (H30~R1)	11% (R2)
濃厚飼料の適正給与 (取組戸数2戸)	14% (R1)	7% (R2)

NOSAIデータより

乾乳期の栄養改善に取り組んだ4農場では、分娩後の疾病（乳熱・ケトーシス・第四胃変位）が減少。

##### 未経産牛頭数の増加

未経産牛頭数は、規模拡大予定農場(2戸)ではH27対比で149%と増加。

##### 地域外への波及

##### 歯舞地域から 他地域へ



- ・ほ育作業立会の実施（JAほ育育成センター、各農場）
- ・各種講習会での事例紹介
- ・地域での取組内容を市内農業者全戸に向け、折り込み資料を発行

#### (2)飼養管理改善による地域生産乳量の向上

##### 搾乳牛の栄養改善による出荷・個体乳量の向上

表 取組農場の出荷乳量の変化（開始年を100%）

取組農場	H29	H30	R1	R2
A	-	開始年	103	116
D	-	-	開始年	111
F	開始年	103	115	120
I	-	開始年	109	110
取組農場4戸の出荷乳量伸び率平均				114%

飼料中のタンパクとエネルギーのバランスを調整したことで、取組農場の出荷乳量は14ポイント増加。平均個体乳量は取組開始年から2.6kg/日増加した。

##### 農業者の声

カーフペンを設置し、ほ乳量も増給し、発育が良くなりました！



将来計画を立てたことで、投資時期を考えるきっかけになったよ。また、ほ育担当者が集まり情報交換を行うことで地域全体に活気が生まれたね！若い経営者のやる気が出て、牛舎建設の動きが出始め、地域は若い経営者が担っていく姿が見えたよ！



### 4 今後の活動 \*\*\*\*\*

地域のほ育牛の事故率は低減し、育成牛の発育向上と共に施設投資予定農場の後継牛が確保されてきたことから、目標達成と判断し今年度をもって終了する。

